

足利風 -ashikaga-fu

2019
2月号
Vol. 60



書：風喜人

足利市民活動センター

開館時間：平日 午前10時～午後7時

〒326-0051

栃木県足利市

大橋町1丁目2006-3

TEL 0284(44)7311

FAX 0284(44)7312

mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



☆ ご案内 ☆

- *特集！
- *TOPICS
- *私のボランティアことはじめ
- *サークル紹介
- *インフォメーション
- *センターからのご案内

* “柔らかさ”と“優しさ”を持つNPOを！ *

NPOという組織論には“老子の養生思想”に通じるものが在る、という。人間は名誉や財貨に対する欲望を抑止することによって、身体が危機に瀕するおそれが無くなり、不老長生を実現することが可能になる、という養生思想。無私無欲の生きざま～前・諏訪中央病院長の鎌田 實さんは、同じ信州に暮らす“伊那谷の老子”から、ボクの「がんばらない」は老子の中庸に通じる、と話してくれた、と嬉んでいた。

ものごとは常に変化する～そして、あなた自身が可能性に満ちたものとしてあることを理解すれば、あなたは訳のわからない不安から解放されるはずだ。



最高の善は水に似ている。水は万物に利益を与えつつ、多くの人が嫌がる低いところにいる。～そのようであれば、そもそも争うことも無く、誤ることも無い…。

自らに克つ者は他者に勝つ者よりも強い～他人を知る者は知恵者であるが、自らを知る者はそれを凌ぐ明智である。～そして何より死んでも忘れられない者がほんとうの意味で長寿である…。

知らないということを知ることは素晴らしい。知らないということを知らないのは病(やまい)である。

何かを奪おうとするなら、いったんこれを与えるに限る。このやり方を“底知れぬ英知”という。すなわち、柔らかく弱いものが強いものに勝つのだ。固くこわばったものは死の仲間。柔弱なものは生の仲間なのだ…。

アメリカの最先端を走る数学者の言葉～老子の思想の真ん中には“優しさ”が…在る。

(M生)

* 被災者たちの弱い声に寄り添って！ *

足利市民活動センターを拠点に、「平成30年7月豪雨」と銘うたれた西日本豪雨災害に際しては、関係者も居住している愛媛県西予市との連携のもと、即日から対応した。数日後、関係者の無事が確認され、一同安堵のなか支援プログラムが継続された。また、伝説ともなった“「がんばろう 東北！」応援プロジェクト足利風”を核とした東日本大震災被災地支援プロジェクトは、現在も、宮城・山元町、岩手・陸前高田などや福島原発被災各地への人的・物的支援が継続中であり、今後とも息の長い、着実な被災地支援が望まれている。足利市民活動センターは、これまで、そして、これからも、小さい声・低く弱い声に耳を澄ませて、これらの人たちに寄り添って行く覚悟です。

* 人間関係と「自立」 *

高井 正



かつて「寿退社」は、結婚が決まり会社を辞める女性に向けての言葉であった。しかし今、「男性の寿退社」という表現がある。人間関係も悪くないし、仕事内容も嫌いではないが、結婚を機に転職をすることを言う。とくに介護の現場で働く男性の場合、厳しい勤務条件・待遇の結果、「家族を支えるため」には転職せざるを得ないという現状の一端を表している言葉だ。

また、「中高年ニート」と呼ばれる無職の中高年独身男性が、親の介護を担っている現状もある。収入の柱は親の年金。介護など様々なことから転職につまずき、その結果、労働市場からも排除され、「ミッシング・ワーカー」(消えた労働者)となる状況も拡大しつつあるという。

今の世の中、「自立」が強要され、何か問題が起きると「自己責任」が厳しく問われ過ぎていのように感じる。社会的にも経済的にも、そして精神的にも「自立」しなければならないという社会は、誰もが生きていくことができる社会なのだろうか。「私」を取り巻く人間関係を豊かにすることで、依存できる関係性を育み、そうした関係性に支えられて初めて「自立」が成り立つのではないだろうかと思う。

公民館や市民活動センターなどの講座やボランティア・市民活動の現場では、「私」とは異なった価値観を持つ人たちと出会うだろう。そんな時は、違って当たり前、違うからこそ豊かな関係性を紡ぎ合う可能性を秘めている、と考えてはどうだろうか。しかし、誰でも新しい場に飛び込むことには勇気がある。とりわけ仕事中心で生きてきた定年退職後の男性の場合、新たな人間関係をつくることに怖ささえ感じるかもしれない。

でも、大丈夫。何かあったら泣いてもいい。相田みつをも言っている。

ぐちをこぼしたっていいがな

弱音を吐いたっていいがな

人間だもの

たまには涙をみせたっていいがな

生きているんだもの

* 自作山岳映画を作りますか！ *

石川 勝

私は山の解放感に魅せられ 30 年、山歩きを楽しんでいます。そして大きなスクリーンで仲間と観る山岳映画にこの上ない喜びを感じます。東京で山の映画会を観て以来、地元で観られたらと、山岳映画サロンの堺さんの助力で 1998 年 120 名参加の映画会がスタート。以来 21 回目を 11 月 25 日迎えました。作者苦心の 1 年一回こっきりの御開帳です。自作山岳映画会を検索すると市川、松本、高山そして足利、数か所だけ。でも毎回 300 人を超える盛況です。あなたも映画を創って楽しみませんか！

① インフォメーション ①

☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・・等々。
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんと一緒に、
ワイワイガヤガヤ・・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。
どうぞ、お気軽にご参加ください。

★ 2月15日(金) PM2:00～4:00

* 本 : 「人間の運命」(芹沢光治良)

* 案内人: 石川 博右 さん

* ひとつこと: 日本ペンクラブ会長も務めた著者の自伝的小説。明治・大正・昭和を生き抜いた一人の日本人の足跡をたどる大河小説です。家族とは、友人とは、神とは何か、人生で出会う数々の問題の道しるべを示してくれます。混沌とした時代の中で、日本人はどのような道徳観を持つべきかを諭してくれる必読書だと思っています。

★ 3月15日(金) PM2:00～4:00

* 本 : 「峠」(司馬遼太郎)

* 案内人: 川田 秀幸 さん

* ひとつこと: 長編時代小説の主人公は越後長岡藩家老・河井継之助。雪国という不利な環境で財政に苦しむ長岡藩の改革を遂行し、動乱の中、中立・独立をめざす継之助。～「志の高さ低さによって男子の価値が決まる。だが、志は塩のように溶けやすい。男子の生涯の苦渋というものはその志の高さをいかに守りぬくかというところにある。」等々の名言が目白押しなのも魅力です。

■会場: 足利市民活動センター

■参加費: 無料

■お問い合わせ・事務局: 足利市民活動センター ☎44-7311

* センターからのご案内 *

☆みんなの広場 ～ 10月・11月のご案内 ～

- | | | |
|--------------|------------|--------|
| * 押し花キャンドル展 | 2月 4日(月) ～ | 14日(木) |
| * 全国郷土のひな人形展 | 2月18日(月) ～ | 28日(木) |
| * 東日本大震災8周年展 | 3月 4日(月) ～ | 14日(木) |
| * 水引き切り絵展 | 3月18日(月) ～ | 28日(木) |

☆相談室&講座のご案内

* 相談室 = 毎月第2・第4水曜 午後2時～4時 ※詳しくは、別紙参照

* 講座 = 毎月1回 午後7時～9時 ※詳しくは、別紙参照

* 編集後記 *

「生き直そうと!」・・・と、長年暮らした長野・松本から京都へ移り住む旨の手紙が、心友から届いた。しばらくは、縁(ゆかり)のあるタイ・チェンマイとの往復だという。半僧半俗の愚禿親鸞とオーバーラップした。 (カサブランカ)